

社会福祉法人東京福祉会
平成29年度 介護職員初任者研修 シラバス

項目名	1、職務の理解	
指導目標	研修に先立ち、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、研修に実践的に取り組めるようになる。	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)多様なサービスの理解	3	<ul style="list-style-type: none"> ■講義 ○介護保険サービス(居宅、施設) ○介護保険外サービス
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○居宅、施設の多様な働く現場における仕事内容 ○居宅、施設の実際の現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験等) ○施設見学
合計時間数	6	
使用する機材等	視聴覚教材(TV、DVD:財団法人介護労働安定センター「介護職員初任者研修補助教材DVD」)	

項目名	2、介護における尊厳の保持・自立支援	
指導目標	<p>・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。</p> <p>・尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて介護にあたるようになる。</p> <p>・虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを守る介護についての基本的なポイントを理解する。</p>	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)人権と尊厳を支える介護	5	<p>■講義</p> <p>(1)人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人としての尊重 ○アドボカシー ○エンパワメントの視点 ○利用者のプライバシーの保護 <p>(2)ICF</p> <p>(3)QOL</p> <p>(4)ノーマライゼーション</p> <p>(5)虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法 ○高齢者の養護者支援 <p>(6)個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業
(2)自立に向けた介護	4	<p>■講義・演習</p> <p>(1)自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立・自律支援 ○残存能力の活用 ○意欲を高める支援 ○個別性／個別ケア ○重度化防止 <p>(2)介護予防</p>
合計時間数	9	
使用する機材等	-	

項目名	3、介護の基本	
指導目標	<p>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解する。</p> <p>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができるようになる。</p> <p>・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解する。</p>	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	<p>■講義・演習</p> <p>(1)介護環境の特徴の理解 ○居宅介護と施設介護のサービスの違い</p> <p>(2)介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点 ○利用者主体の支援姿勢 ○自立した生活を支えるための援助 ○根拠のある介護 ○チームケアの重要性 ○事業所内のチーム ○多職種から成るチーム</p> <p>(3)介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解 ○専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○チームケアにおける役割分担</p>
(2)介護職の職業倫理	1	<p>■講義</p> <p>○専門職の倫理の意義 ○介護の倫理(介護福祉士の倫理) ○介護職としての社会的責任 ○プライバシーの保護・尊重</p>
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	<p>■講義・演習</p> <p>(1)介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術</p> <p>(2)事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント ○事故に至った経緯の報告 ○情報の共有</p> <p>(3)感染対策 ○感染の原因と経路 ○「感染」に対する正しい知識</p>
(4)介護職の安全	1	<p>■講義</p> <p>○介護職の健康管理 ○ストレスマネジメント ○腰痛の予防 ○手洗い・うがいの励行 ○感染症対策</p>
合計時間数	6	
使用する機材等	-	

項目名	4、介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
指導目標	<p>・生活全体の支援の中で、介護保険制度の位置づけと各サービスや地域支援の役割について理解する。</p> <p>・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念について理解する。</p> <p>・ケアマネジメントの意義や代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて理解する。</p> <p>・高齢者、障害者の生活の基本的な考え方や、代表的な障害者福祉サービスについて理解する。</p> <p>・医行為の考え方を学ぶ。</p>	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)介護保険制度	5	<p>■講義</p> <p>(1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアマネジメント ○予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターの設置 <p>(2)仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保険制度としての基本的仕組み ○介護給付と種類 ○予防給付 ○要介護認定の手順 <p>(3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</p>
(2)障害者総合支援制度及びその他制度	2	<p>■講義・演習</p> <p>(1)障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害の概念 ○ICF <p>(2)障害者の自立支援に関する制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで <p>(3)個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業
(3)医療との連携とリハビリテーション	2	<p>■講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割・連携 ○リハビリテーションの理念
合計時間数	9	
使用する機材等	-	

項目名	5、介護におけるコミュニケーション技術	
指導目標	<p>・共感、受容、傾聴的態度、気付き等基本的なコミュニケーションのポイントについて理解する。</p> <p>・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性、介護職として持つべき視点について理解する。</p> <p>・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点について理解する。</p> <p>・記録の機能と重要性に気付き主要なポイントについて理解する。</p>	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)介護におけるコミュニケーション	3	<p>■講義・演習</p> <p>(1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴 ○共感の応答 <p>(2)コミュニケーションの技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語的コミュニケーションの特徴 <p>(3)利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の思いを把握する ○利用者の感情に共感する ○家族の心理的理解 ○信頼関係の形成 ○自分の価値観を押し付けないようにする <p>(4)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ○失語症に応じたコミュニケーション技術 ○構音障害に応じたコミュニケーション技術 ○認知症に応じたコミュニケーション技術
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	<p>■講義・演習</p> <p>(1)記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護における記録の意義・目的 ○個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等) ○ヒヤリハット報告書 ○5W1H <p>(2)報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○報告・連絡・相談の留意点 <p>(3)コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアカンファレンスの重要性
合計時間数	6	
使用する機材等	-	

項目名	6、老化の理解	
指導目標	<p>・加齢、老化に伴い生理的な心身の変化、特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面等、心理的特徴について理解する。</p> <p>・高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴及び治療、生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて理解する。</p>	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)老化に伴うところとからだの変化と日常	3	<p>■講義・演習</p> <p>(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防衛反応(反射)の変化 ○喪失体験 <p>(2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体的機能の変化と日常生活への影響 ○咀嚼機能の低下 ○筋・骨・関節の変化 ○体温維持機能の変化 ○精神的機能の変化と日常生活への影響
(2)高齢者と健康	3	<p>■講義</p> <p>(1)高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○骨折 ○筋力の低下と動き・姿勢の変化 ○関節痛 <p>(2)高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ○老年期うつ病症状 ○誤嚥性肺炎
合計時間数	6	
使用する機材等	-	

項目名	7、認知症の理解	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について理解する。 ・健康な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違いを理解する。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、及びそれに影響する要因について理解する。 ・認知症の心理、行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方及び介護の原則について理解する。 ・若年性認知症の特徴について理解する。 ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群の予防について理解する。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について理解する。 ・認知症の利用者とのコミュニケーションについて理解する。 	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1) 認知症を取り巻く状況	1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義 認知症ケアの理念 <ul style="list-style-type: none"> ○ パーソンセンタードケア ○ 認知症ケアの視点(できることに着目する)
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義 ○ 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態 ○ もの忘れとの違い ○ せん妄の症状 ○ 健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア) ○ 治療
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義・演習 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症の中核症状 ○ 認知症の行動・心理症状(BPSD) ○ 不適切なケア ○ 生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人の気持ちを推察する ○ プライドを傷つけない ○ 相手の世界に合わせる ○ 認知症の進行に合わせたケア
(4) 家族への支援	1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義 ○ 認知症の受容過程での援助 ○ 介護負担の軽減(レスパイトケア)
合計時間数	6	
使用する機材等	-	

項目名	8、障害の理解	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICFについて理解する。 ・各障害の内容、特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について理解する。 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について理解する。 	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)障害の基礎的理解	1	<ul style="list-style-type: none"> ■講義 (1)障害の概念とICF <ul style="list-style-type: none"> ○ICFの分類と医学的分類 ○ICFの考え方 (2)障害者福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ○ノーマライゼーションの概念
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	<ul style="list-style-type: none"> ■講義 (1)身体障害 <ul style="list-style-type: none"> ○視覚障害 ○聴覚、平衡障害 ○音声・言語・咀嚼障害 ○肢体不自由 ○内部障害 (2)知的障害 (3)精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) <ul style="list-style-type: none"> ○統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4)その他の心身の機能障害
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	1	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援 ○介護負担の軽減
合計時間数	3	
使用する機材等	-	

項目名	9、こころとからだのしくみと生活援助技術	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージし、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について理解する。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)、生活の中での機能低下の予防の考え方や方法について理解する。 ・人体の構造や機能、なぜ行動が起こるのかを理解する。 ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備について理解する。 ・家事援助の機能と基本原則について理解する。 ・装うことや整容の意義を理解する。又、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができるようになる。 ・体位変換と移動、移乗の意味と関連する用具・機器や様々な車いす、杖等の基本的使用方法を理解する。又、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法を理解する。又、食事に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味、入浴を取り巻く環境整備、入浴に関連した用具について理解する。又、入浴に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具について理解する。又、排泄に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具について理解する。又、睡眠に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた、留意点、本人・家族への説明と理解、介護職の役割や他職種との連携について理解する。 	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)介護の基本的な考え方	2	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 <ul style="list-style-type: none"> ○理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護

(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
(4)生活と家事	2	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○家事と生活の理解 ○自立支援 ○主体性・能動性を引き出す方法 ○多様な生活習慣、価値観
(5)快適な居住環境整備と介護	2	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○快適な居住環境に関する基礎知識 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具
(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ○身じたく ○整容行動 ○洗面の意義・効果
(7)移動と移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○移動・移乗に関する基礎知識 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ○利用者の自然な動きの活用 ○残存能力の活用・自立支援 ○重心・重力の動きの理解 ○ボディメカニクスの基本原理 ○移乗介助の具体的な方法 ○移動介助(車いす・歩行器・つえ等) ○褥瘡予防

<p>(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>■講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事をする意味 ○食事のケアに対する介護者の意識 ○低栄養、脱水の弊害 ○食事と姿勢 ○咀嚼・嚥下のメカニズム ○空腹感、満腹感 ○好み ○食事の環境整備(時間・場所等) ○食事に関する福祉用具の活用と介助方法 ○口腔ケアの定義 ○誤嚥性肺炎の予防
<p>(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>■講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○羞恥心や遠慮への配慮 ○体調の確認 ○全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方) ○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ○陰部清浄(臥床状態での方法) ○足浴・手浴・洗髪
<p>(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>■講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プライド・羞恥心 ○プライバシーの確保 ○おむつ使用の弊害 ○排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ○トイレ介助の具体的方法 ○便秘の予防
<p>(11)睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>2</p>	<p>■講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安眠のための介護の工夫 ○環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室) ○安楽な姿勢・褥瘡予防
<p>(12)死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>2</p>	<p>■講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○終末期ケアとは ○高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死) ○臨終が近づいたときの兆候と介護 ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性

(13)介護過程の基礎的理解	5	■講義・演習 ○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ ○アセスメント表と計画書の作成
(14)総合生活支援技術演習	5	■講義・演習 事例を基に、整容、移動・移乗、食事、排泄、入浴、睡眠に関する実技演習を行う
合計時間数	63	

使用する機材等	特殊寝台(ベッド)、車いす、ポータブルトイレ、浴槽、福祉用具、介護用品、DVD(財団法人介護労働安定センター「基本介護技術」)
---------	---

項目名	10、振り返り	
指導目標	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。	
科目番号・科目名	時間数	講義内容・演習の実施方法
(1)振り返り	2	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○研修を通して学んだこと ○根拠に基づく介護についての要点等再確認を行う
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	<ul style="list-style-type: none"> ■講義・演習 ○今後継続的に学ぶべきこと
合計時間数	4	
使用する機材等	-	